

商流システム開発業務

プロポーザル審査講評について

1. 審査経過の概要

商流システム開発業務プロポーザルには、3事業者からご提案をいただきました。

審査の流れとしては、令和8年8月21日を提出締切としておりました参加申込書について資格審査を行い、令和8年9月18日にプレゼンテーション・ヒアリングを隠岐の島町役場町民ホールで実施し、審査員との質疑応答を行いました。その後、各審査員が提案された業務提案について実現性や的確性、独創性、公平性などの視点から評価を行い、各委員の平均点を算出しました。

審査会では、各委員の採点の考え方を元に協議し、総合的に判断した結果、一般社団法人隠岐まちづくり研究所を最優秀提案者に選定しました。

2. 商流システム開発業務審査講評

本プロポーザルは、地域産業の商流再構築に向けた実効性あるモデルの構築、町内事業者との連携、販路開拓、デジタル活用など多岐にわたる業務を円滑に遂行するため、審査項目のうち「提案内容の有効性・実現可能性」「業務遂行能力・実績」「見積価格」について重点的に評価しました。

～最優秀提案の評価概要～

提案者の提案内容は、地域産業の構造や既存課題を踏まえた現状分析が具体的であり、商流モデルの妥当性、地域内事業者との連携方針、データ連係・DXの視点など、主要項目で高い評価を得ました

また、同種事業の実績が複数確認され、専門性を備えた体制が整っていることから、業務遂行の確実性が高いと判断されました。独自提案についても、地域の現状を的確に把握した内容であり、町内事業者との連携を図りながら商流改善を進めるうえで、最も実現可能性の高い提案であると評価されました。

以上の評価から、隠岐の島町が選ぶ最適な提案であると判断しました。

～その他提案の評価概要～

その他の提案内容は、地域産業の課題認識や商流再構築に向けた意欲が見られ、地域特性を踏まえた検討が行われていました。また、担い手育成や地域内事業者との連携、地域外販路の開拓方針に関する提案については、一定の具体性が確認され、審査委員会としても評価すべき点がありましたが、商流モデルの具体性、デジタル活用（O2O・EC）の妥当性、同種事業の実績、業務遂行体制の充実度などの観点において、最優秀提案と比較すると総合的に及ばない点が見られました。特に、業務遂行の確実性や提案内容の深度において、最優秀提案者の提案がより高い実現可能性を有していると判断されました。

審査委員会としては3社の提案を慎重に審査し、各社の熱意と努力、企画力に感銘を受けました。しかし、仕様書で示した業務内容の遂行、同種・類似業務の実績、地域産業の分析の深度、商流モデルの具体性などの観点から総合的に判断し、最も確実性の高い提案者を最優秀者といたしました。

本業務は、隠岐の島町の商流改善と地域産業振興に向けた重要な取組であり、町内事業者や関係者との密な連携を図りながら進めていただくことを期待します。

最後に、本プロポーザルに参加され、貴重な時間と労力を費やし、真摯に提案いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

商流システム開発業務

プロポーザル審査委員長 藤野 一